



富良野市教育委員会学びのまち推進課学びのまち推進係

電話 0167-39-2318 文責：上用 眞一郎



“美しいと感じること”



10月14日（火曜日）麓郷の最低気温は-1.2℃。霧がかかった朝でしたが、少しずつ霧の中から青空がのぞいてきました。

白から赤に変化したアジサイ、リトルデビルのピンクの小花、そして四季バラが草木の紅葉とともにカラフルな色に染まっています。

朝陽を浴びて輝くこの朝の風景は、年月を経て、人と自然との調和から生まれた美しさだと思います。勿論人の手が加わらない自然のみが織りなす風景にこそ真の美しさがあるのかも知れませんが、美しさの比較ではなく、美しいと感じる心が大切なのだと思います。

ひんやりした空気、霧の間から朝陽が差す休日の早朝、美とか、自然とか、芸術とか、感性とか…きっと、いろいろと学び、考えることが、人生をより豊かなものにしていくのではないかと思います。

雪虫がたくさん飛び交っています。ふわふわとした白くてきれいな冬の使者…ところで、雪虫はアブラムシが変身しているのですから美しさは実に奥が深い！

さて、明日はいよいよ三市町芸能発表交流会です。今日は前日準備、予定を変更して学年別研究の時間を「コーラス」と「リズムダンス」の自主練習にします。

今年度は午後からの開催となります。当日のプログラムを掲載しましたので確認してください。

明日は、午前中練習をし、早めの昼食をとり出発します。

開会式には各校の校歌も歌います。



本日、15日(水)学習日程

“ 図書館祭り展示作品の撤去作業日です。”

全日、複合庁舎文化会館会議室 A

9時30分：朝の集い：文化会館会議室 AB 集合

10時00分：楽しい中国語講座 II

12時00分：休憩 昼食

13時00分：「コーラス」 文化会館リハーサル室

「リズムダンス」文化会館 AB

◎三市町芸能発表交流会についての最終確認 (服装・持ち物・台紙)

14時10分：「コーラス」「リズムダンス」自主練習

学年別研究の予定でしたが変更します。

15時00分：後片付け スコップ三味線練習 図書館3F 研修室

16時00分：終了

<10/16 (木) 三市町芸能発表交流会>



9時30分：市立富良野図書館会議室 I に集合、朝の集い

10時00分：前日リハーサル 「コーラス」：会議室 I or 研修室

「リズムダンス」：2階多目的ホール

11時00分：昼食・休憩 (会議室 I、交流室)

11時45分：バス乗車

12時15分：上富良野町保健福祉総合センターかみん 着

(071-0561 上富良野町大町2丁目8-4 0167-45-6987)

12時30分：三市町芸能発表交流会 開会式

12時45分：芸能発表

16時00分：三市町芸能発表交流会 閉会式 次年度開催地挨拶

次回、10月29日(水)学習日程

午前：クラブ学習：市立富良野図書館

午後：手話講座Ⅰ：複合庁舎文化会館会議室 CD

9時30分：朝の集い：市立富良野図書館 2階多目的ホール

9時50分：クラブ学習準備

10時00分：クラブ学習

12時00分：休憩 昼食 複合庁舎文化会館 CD に移動します。

13時00分：手話講座Ⅰ

講師：土師 桂子（はじ けいこ）先生

通訳：近藤ゆかり（こんどうゆかり）さん

15時00分：後片付け 終了



夏の終わりに植えたトウルーブルーム・パピュ

手話講座・市民総合文化祭・学年別研究



(道新 10/11) 干上がりし舗道に伸びし蚯蚓かな
黒揚羽優雅に舞ひし花の上

原 あけみ
加瀬谷利江

図書館祭りが終わりました。初めてのことぶき大学の参加でしたが、とても好評だったようです。

クラブ学習の年間計画では、11月の市民総合文化祭の作品展示に向けての活動が主体となるので、10月の段階では、まだ作品が仕上がらない人もいました。

でも、思考を凝らしての発表、特に書道クラブの作品には、図書館まつりの「図書」の大きな筆文字、とてもインパクトがありました。

芸術の本質は「表現の仕方」にあると思います。気持ちや感情がどう相手に伝わるのか、今回の書道も含めてクラブ学習の作品が



生きる意欲や喜びを与えるものであってほしいと強く思います。

学年別研究も同時進行で進められています。それぞれの学年、あるいは学年の超えた共通のテーマに沿って活動しています。



文化会館の会議室で活動する学年、図書館で活動する学年もあれば、生涯学習センターで学芸員の方から講義を受ける学年、総合保険センター



の方から提供された資料を参考にしながら12月の実践発表交流会に向けて話し合いが進められています。



この取り組みは、私たち高齢者にと



って、自分自身の歩みを再認識する機会だと思えます。新しいことを知り、考え、そして表現することは、単なる学び直しではなく、「生きていることの意味」を問い直す営みであり、新しい未来へつながる活動になるはずです。

自分の意見を出し、相手の意見に耳を傾け、共通の課題をグループで論議することで、未知なる新しい発想が生まれます。人のために生きることの大切さに気づくこと…それこそがこの活動の目的なのかもしれません…

そして、10月末から新しい講座がスタートします。

「手話講座」です。手話は「手の言葉」です。表情や動き、間の取り方など、言葉以外の伝え方の豊かさに気づくことができると思います。

初心者講座では、基本の挨拶や指文字から始まります。手話は初めてでも、大切なのは言葉にできない気持ちを手の動きで表現すること。相手の表情や動きに注意を向けること…それは日常生活でも大切なことです。

手話は「静かな対話の芸術」という言葉を聞いたことがあります。

“手話は美しい！”

この講座が、地域のつながりを深め、人生の豊かさを広げる一歩になることを願っています。

富良野市ことぶき大学の努力目標

- 1.自ら考える行動
- 2.与えられた幸せより、自ら築く幸せの学習
- 3.自分たちの幸せを他の人々に広げる行動
- 4.知識と経験の交換による学習

この講座は、この目標に直結するものだと確信しています。



寄稿文

連載自叙伝

「それからの私（富良野編）」

ことぶき大学第二研究生 伊藤公雅

その二

ある日、身体機能検査の受診通知が来た。札幌鉄道病院での検査であるが、当日案内された検査室は、狭い一室に金網の中にベッドが一台置かれて居た。そのベッドに横になると、周りの照明が消され、顔面上に白色ランプを当てられ検査が始まった。

最初はゆっくりと点滅が繰り返され、その内早くなったり遅くなったりまたその周期が長くなったり、短くなったり。

それらに続き異様な雑音が加わるなどそれを何度か繰り返された。

これは何だろうと非常に驚かされた。

後日、解った事では、人間究極な状態に陥った時、どの様な行動を起こすのか、また発狂するのか等を診断するのだと聞かされた。実際に金網の中で気がおかしく成り、金網に手を掛け暴れる人が居たそう。

その様な人は、乗務員ルートから外され、他の職場に回された様です。

大雨が続くある日、同じ職場の職員自宅が冠水しそうだ、血相をかいて職場に駆け込んで来た。話を聞くと通称アヒル部落で、大雨に成ると冠

水する被害が有る地域であると。私は丁度夜勤明けで、帰る身支度をしていた。家主の話聞きながら一階に有る家財道具や畳を二階に揚げ、玄関から徐々に上がって来る水位を見守った。

退避していた二階の窓からは、一面湖沼を思わせる景色と成り、田畑が埋まり河川との境界も判らない。遠くに豚舎と思われる古い建物から、ヒーヒーと悲鳴に似た豚の鳴き声が響き渡っていた。

暫くして職場の仲間が筏を仕立てて、避難するようにと迎えに来た。

胸まで水に浸かりながら筏を押ししてくれた。水際には大勢の人達が洪水の様子を見守っていた。

翌日、友人を連れ被災宅の息子（2, 3歳年上の機関助手）が私の所へ訪ねて来た。被災の遭った当日、本人は仕事で留守でした。

私有家主に借りたズボンにお金が入っていたが、の問合せ。

ポケットの中は、何も触れずそのまま二階の部屋に置いてきたと話した。

後日、本人に出会い詳細を聞いた。すると有ったと一言。水害の手伝いの労いの言葉も無く、なんと失礼な奴だなど思った。

普段から企業内の通信教育を利用し、鉄道一般、運転法規等のレポートを提出していた。その甲斐が有ってか、機関助手試験にパスし、札幌苗穂の鉄道教習所に入所し、機関車の構造や操作方法、運転規定等の他に二級ボイラーの講義が有り、その国家試験も有った。因みに機関士は一級が必要。

三ヶ月程の教育を受けた後、現場での実習訓練が始まった。

職場の一角に投炭練習棟が有り、そこでの訓練が始まり、片手シャベル（1 kg）300杯、2 kgシャベル150杯、模型の火床に投炭するのである。

最初の頃は手首が疲れてこぼれた石炭が、床に筋状の山に成った（散乱した石炭は計りにかけ、その量は減点の対象になる）が、回数を重ね計測値でなければ減点の対称と成る。投炭順序が有りその順序を間違えると火床が均一に成らず、不完全燃焼を引き起こす原因となる、曳いてはボイラー圧力が下がり、列車の運転に支障を来たす。

その様な事態に至らないためにも、訓練を怠らない。それらの事を一定の時間に終了しなければ時間オーバーとなり、減点の対象になる。

真夏の訓練は汗が滴り落ち、床面に汗の筋が出来た。

その他に、信号機の現時確認呼称訓練が有り、振り子の速度に合わせ「出発進行」等の喚呼を行う。

一般に言われている「出発進行」は信号が青の表示の時に言う言葉で信号が黄色を現示していれば「出発注意」である。信号機には、出発信号機は勿論の事、場内信号機や閉塞信号機、その他が有ります。

苦しい訓練を終え無事合格した後、助士の見習い期間に入った。

機関助手見習いの頃、急行「まりも」の57の蒸気機関車に乗務し、岩見沢駅本線乗り継ぎの為、短時間で火床の

釜替え（灰落し）をし、継続乗務員に引き継いだ。

線路脇にはまだ残雪が有る寒い早朝であったが、



汗がしたたり落ちタオルで汗を拭いながら引継ぎを行なった。機関助手の独り立ちに成った頃、早朝に呼び出しが掛かり東鹿越で貨物列車が脱線転覆し、緊急出勤の呼び出しが有った。取り急ぎ身支度をし、職場へと向かった。

救援列車を仕立て機関車は9600形式、事故現場へ緊張した面持ちで向かった。事故現場ではディーゼル機関車が安全側線に乗り上げ、後続の牽引貨車が土手下の道路に数台転げ落ち、道路を塞いでいたのを目の当たりにした。

幸いディーゼル機関車は重心が低い為、道路下に転げ落ちる事は無かったが、重心の高い蒸気機関車だと恐らく道路下に転覆したであろうと思われた。



また、昭和43年10月1日国鉄の10年に一度のダイヤ改正時、朝出勤したと同時に。運転助役席の一本の電話が鳴り響いた。

「えっ！機関車が川に落ちた？近隣の農家からの電話で、場所は？場所とは悲痛な電話のやり取りで。富良野川といえば直ぐそこではないか！

当日は、日勤勤務でしたので、私は直ぐに現地に向かい一目散に線路上を走った。増水した川の濁流の中に車輪を上に向け、腹を見せた機関車が横たわっていた。遺体引揚げの機材や人員の呼出し手配等、現場は未曾有の状態でした。列車後方の対岸近くに、濁流に浸かった貨車の屋根上で、救助を待つ車掌の姿が有った。

運転席の側板を酸素切断し、遺体搬出の準備に掛かった。（続く）